

令和7年度 学校経営計画書（自己評価）

学校番号	52	学校名	ふじのくに国際	校長名	眺野 大輔
------	----	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	ICT等を有効に活用し、生徒の主体的な学びを喚起するとともに、個に応じた指導の充実を図り、個別最適な学びの実現を目指す。	○教員の指導の工夫により授業内容を理解できたと答える生徒 80%以上	授業の内容をよく理解できたと答えた生徒 81%。先生方は授業内容を理解できるように指導していると答えた生徒 84%。	A	少人数授業を利用した丁寧な授業を行うことができた。来年度以降も継続していく。
		○ICTを活用して個に応じた指導につなげる工夫をしたと答える教員 80%以上	授業の中でICTを活用していると答えた教員 76%。	B	【参考】授業でChromebookを積極的に活用していると答えた生徒 81%。来年度も継続していく。
		○授業で個人端末を活用し、自分の考えが深められたと答える生徒 80%以上	Chromebookを活用して、授業で自分の考えを深めることができたと答えた生徒 80%。	A	来年度以降も継続し、個別最適な学びへとつなげていく。
イ	全ての教育活動で探究的な学びに取り組むことにより、生徒の課題解決能力を養い、グローバル・ローカルな視点の新しい価値を創造していく力を育成する。	○授業を通して探究的な学びに取り組む意欲が向上したと答える生徒 80%以上 ○校外の人や団体の協力を得て学習したと答える生徒 100% ○各教科の授業に探究的な手法を取り入れた教員 100%	教科の授業や総合的な探究の時間を通して、課題解決に取り組む意欲を向上させることができたと答えた生徒 76%。 これまでの活動を通して、家庭や学校以外の人たちと関わりを持つ機会があったと答えた生徒 70%。 授業の中で探究的な手法を取り入れたと答えた教員 80%。	B	中間年次生は自己評価が高い傾向があった。入学年次生においても、同等の活動を実施しているため、入学後の初年度から、自己評価を高めるための継続的な仕掛けが必要である。
		○個々の能力や個性を大切にして学校生活を送ったと答える生徒 80%以上	これまでの学校での活動を通して、自分の能力や個性を大切にして学校生活を送ることができたと答えた生徒 79%	B	【参考】生徒個々の能力や個性を大切にする生活指導・支援をすることができたと答えた教員 96%。来年度以降も継続する。

様式第3号

		○校内研修により、授業改善についての知識・技能が高まった教員 80%以上	校内研修により、探究的な学習を促進するための知識・技能が高まったと答えた教員 96%。	A	引き続き効果的な研修を実施していく。
ウ	基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康な身体をつくるとともに、協働的な学びを通し、社会を生き抜く力を育成し、生徒個々のウェルビーイングの向上を目指す。	○皆が安心して学校生活を送れるよう意識していると答える生徒 90%以上 ○自分に良いところがあると答える生徒 70%以上 ○自分のニーズにあった学校生活を送ることができていると答える生徒 90%以上 ○交通事故発生件数：0件	安心して学校生活を送ることができたと答えた生徒 76%。 自分には良いところがあると答えた生徒 68%。 自分に合った学校生活を送ることができていると答えた生徒 74%。 交通事故発生件数 2件	B	特に入学年次で自己評価が低い傾向があった。入学前相談及び初期指導・支援等の改善を検討していく。
		○図書館を利用したと答える生徒 70%以上	学校図書館を利用したと答えた生徒 56%。	B	学校魅力化TF等で利用促進を検討する。
		○年間を通じた朝食摂取率が80%以上	朝食摂取率 84%。 (10月調べ)	A	中間年次で低下傾向であった。卒業年次での回復を支援したい。
エ	個性を尊重したキャリア形成を支援し、生徒自らが夢の実現に向けて未来を切り拓いていく力を育成する。	○自分自身について考えた（自己理解に努めた）と答える生徒 70%以上 ○高校卒業後の自分自身の生き方について考えたと答える生徒 60%以上	探究活動を通して、自己理解が深まったと答えた生徒 77% 進路ガイダンスやおしゃべり未来支援室を通して、自分自身について考えることができたと答えた生徒 68%。 進路希望調査や進路ガイダンスを通して、卒業後の進路について考えることができたと答えた生徒 77%。	A	【参考】本校は適切な進路指導をしていると答えた保護者 81%（中間年次生 85%）。保護者からも一定の理解は得られている。画一的な進路指導ではなく、探究学習を通じた進路実現の支援を行うことについて、引き続き周知していく。
オ	家庭や地域、社会と積極的に向き合い、地域に貢献する人づくり・信頼される学校づくりを推進する。	○避難所、自宅の防災用品の確認をした生徒 70%以上	地域防災訓練の日程や避難所を確認したと答えた生徒 76%。 自宅の防災用具や食料について確認したと答えた生徒 47%。	B	引き続き定期的な呼びかけを実施し、防災意識を促していく。

様式第3号

		<p>○学校は生徒の学校生活の様子について情報提供してくれると答える保護者 80%以上</p> <p>○中学校向け学校説明会の参加者 100 人以上</p>	<p>本校は、メール配信やSNSなどで、学校の情報を積極的に提供していると思うと答えた保護者 86%。</p> <p>中学校教員向け説明会参加者：第1回 41人、第2回 21人。</p>	B	<p>各中学校に訪問し、説明会も随時実施した。来年度は1月に学校説明会を実施するなど、引き続き積極的な広報を行っていく。</p>
		<p>○校内外で他者への奉仕活動や貢献活動を行った生徒 60%以上</p>	<p>学校の内外で、誰かの手助けをしたり、ボランティア活動を行ったと回答した生徒 47%。</p>	B	<p>総合的な探究の時間の活動における達成感を高められるように、引き続き支援を行っていく。</p>
カ	<p>様々な課題に応じた相談・支援体制の充実を図り、生徒が多様な価値観や個性を尊重し、望ましい人間関係を形成する力を育成する。</p>	<p>○先生方は悩みや相談に応じてくれると答える生徒 80%以上</p> <p>○生徒の多様性に配慮した支援をしていると答える教員 100%</p>	<p>先生方は自分の悩みや相談に応じてくれると答えた生徒 80%。</p> <p>生徒個々の能力や個性を大切に授業をすることができたと答えた教員 84%</p>	B	<p>サポーター制の導入などにより、一定の成果を上げることができた。引き続き支援を行っていく。</p>
キ	<p>国際バカロレア教育導入に向けて、教育プログラム等の研究を推進するとともに、その魅力を県民及び他校に積極的に発信する。</p>	<p>○授業の中で生徒の ATL を高める指導の工夫をした教員 80%以上</p> <p>○IBの学びについて理解した上で DP を選択した生徒 100%</p>	<p>授業の中で生徒の ATL を高める指導の工夫をしたと答えた教員 76%。</p> <p>生徒が IB の学びについて理解したうえで DP を選択したと答えた教員 100%。</p>	B	<p>IB ウィークリーミーティングなどの活用により、教員全体に IB の理念を浸透させることがある程度達成できた。引き続き“IB スクール”として、学校全体で取組を継続していく。</p>
		<p>○説明会で IB 教育への理解を深めた参加者 80%以上</p>	<p>IB 説明会 (6/28 (土)) に参加した 17 人のうち、説明会で理解を深めることができたと答えた生徒・保護者 100%</p> <p>【参考】5回実施した学校説明会 (IB 説明会含む) で IB 模擬授業を受講した生徒：53人</p>	A	<p>一定の成果を上げることはできた。引き続き中学校への出張授業等を検討する。</p>

様式第3号

ク	働き方改革を推進するとともに、時代に対応した多様な魅力ある学びの場の整備・充実を図る。	○毎月の時間外在校等時間の一人当たりの平均時間 30 時間以下 ○ICT を活用して業務改善をしたと答える教員 80%以上 ○Cラーニングを学校との情報共有に活用できた生徒・保護者 95%以上	時間外勤務時間一人当たりの平均時間が 30 時間以上の教員 6 人。 授業の中で I C T を活用していると答えた教員 76%。 Cラーニングを学校との情報共有に活用できたと答えた生徒 79%、保護者 87%。	B	引き続き業務の分担化及び効率化を検討していく。 Cラーニングの活用率は、100%を目指す。
		○施設設備に起因する事故 0 件	施設設備に起因する事故 0 件	A	来年度も安全点検等を継続する。
		○全職員による校内コンプライアンス委員会を毎月実施	職員会議後に毎回実施。	A	来年度も継続する。